

運送業界の健康支援を生きがいに



201 定年延長時の健康チェック

年度初めに、ドライバーの定年延長を検討されている事業者も多いかと思えます。そこで今回は、高齢者に事故なく健康でお仕事を続けていただくために、事業者が抑えておきたいチェックポイントについて述べたいと思います。

◆節目人間ドックの受診を
定期健康診断は毎年受診されていますが、定年延長を検討する節目年度には、運転業務が可能かどうかの健康チェックのためにも、人間ドック受診をお勧めします。人間ドックは、病気の早期発見・早期治療を目的としていますので、早期のガンが見つかったり、重篤な病気の早期治療につながるなどのメリットがあります。また自身では自覚していなかった加齢による、視力や聴力の低下に気づかされたりします。

◆節目人間ドックの受診を
定期健康診断は毎年受診されていますが、定年延長を検討する節目年度には、運転業務が可能かどうかの健康チェックのためにも、人間ドック受診をお勧めします。人間ドックは、病気の早期発見・早期治療を目的としていますので、早期のガンが見つかったり、重篤な病気の早期治療につながるなどのメリットがあります。また自身では自覚していなかった加齢による、視力や聴力の低下に気づかされたりします。

◆業務上の措置

もちろん人間ドックできし問題がなければ、従来と変わらない業務が可能です。状態にもよりますが、そうであれば業務負荷の軽減や時間短縮等、健康年齢に即した業務上の措置が求められます。

また中には結果を受けて、雇用延長を断念せざるを得ない場合もあるかと思えます。管理者の方は、難しい決断を求められる場合もありますが、これらのルールは就業規則等に明記し、あらかじめ周知しておくなどの対応をお勧めします。蛇足ではありますが、この場合の受診費用は全額会社負担になりますね。

◆気づくことの大切さ

4月には国交省から「視野障害対策マニュアル」が発出されます。高齢になると見える範囲が狭くなるなど、よほど進行しないと自分で気づきにくい機能低下が増えてきます。聴力についても同様に、「運輸ヘルスケアナビシステム」に基づく調査では、60歳以上では2人に1人に所見があり、水面下での事故リスクが感じとれます。「あれもこれも低下して…」と残念な思いもありますが、自分の身体を自覚することで、従来よりも丁寧な運転を心がけることができれば、事故防止につながるのではないのでしょうか。

(次回は4月11日号に掲載)

《全日本トラック協会 SAS 検査受託機関》
NPO 法人 ヘルスケアネットワーク (OCHIS)
副理事長 作本 貞子
「安全と健康を推進する協議会(両輪会)」代表
国土交通省健康起因事故対策協議会委員
TEL : 06-6965-3666
FAX : 06-6965-5261
東京オフィス TEL : 03-3295-1271
E-mail sakumoto@ochis-net.com
HP <http://sas.ochis-net.jp/>